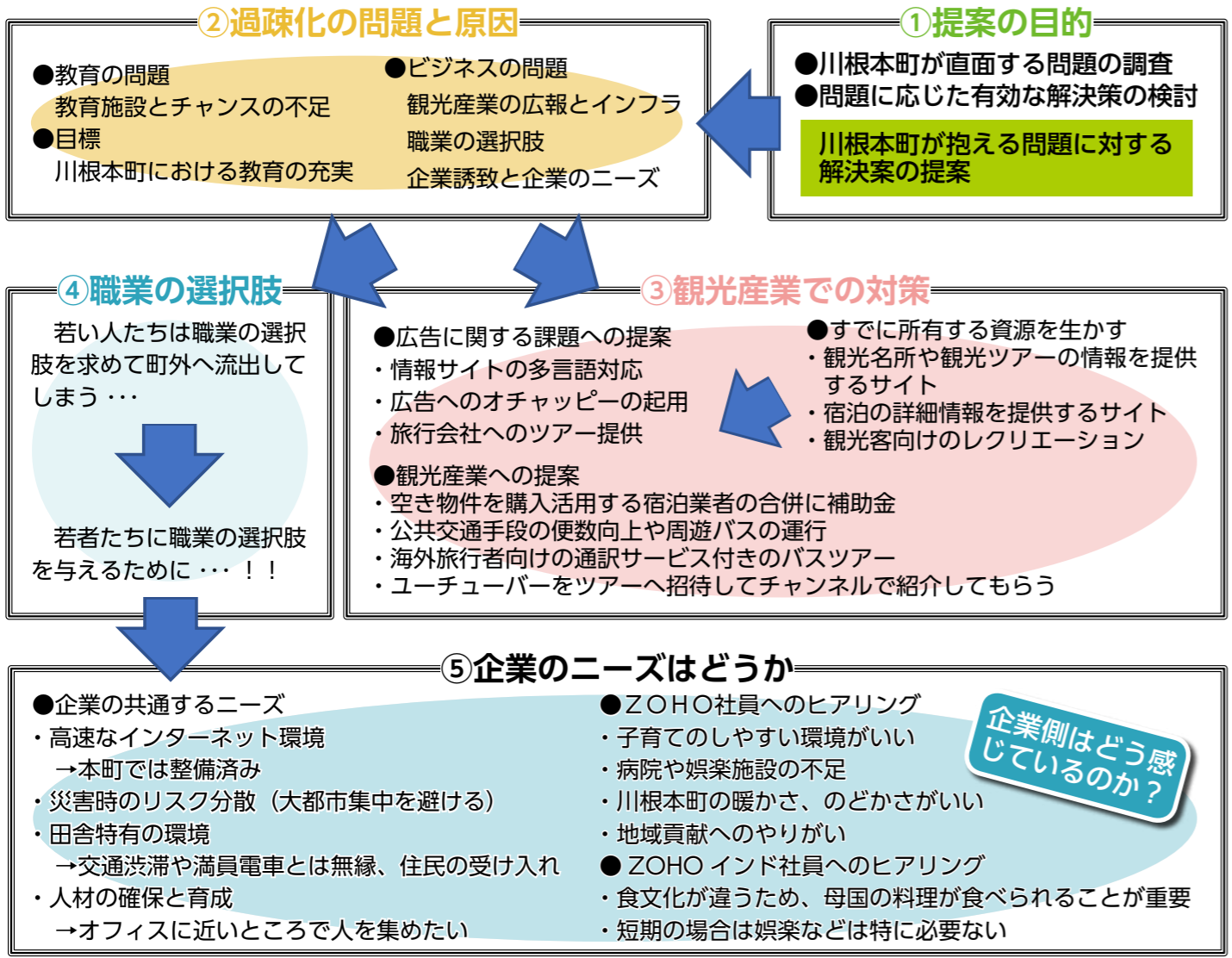




ゾーホー・ジャパン インターンシップ



2月25日(月)〜3月1日(金)の1週間、町内においてゾーホー・ジャパンのインターンシップ事業が実施され、インドから2人、ベトナムから1人の留学生と、静岡大学の留学生サポーター1人の計4人が参加しました。

この事業は、静岡県が行っている「ふじのくに」留学生就職促進プログラムの一環として行われたもので、日本企業に就職したくても日本語が苦手な留学生のために、フィールドワークによるコミュニケーション実習として行われたもので、町内のサテライトオフィスを活用しながら川根本町の地域課題へ取り組みというテーマで活動を行いました。

初日となった2月25日には、川根高校にて高校生と留学生がコミュニケーションを図り、国際理解や語学力の向上を目的とする特別授業が実施されました。

授業のほとんどは英語で行われ、それぞれの出身国や大学での研究内容について紹介したほか、ゾーホー・コーポレーションが開発したグループ内で情報を共有したり交換したりするソフト「ゾーホーコネクト」の説明と体験が行われました。

授業を受けた2年生の木内悠斗さんは「話すのが少し早くて戸惑ったが、この先はもっと早い英語を聞かなければならない。留学生も身振り

手振りを交えて教えてくれたのでよかった」と感想を語りました。

2月26日には町の担当者から本町の現状や抱える問題点についての聞き取りを実施。大学生というだけでなく、海外からの視点という留学生ならではの考え方で解決策を模索、町へ提案するグループワークが行われました。

3月1日に行われた成果発表会では、同席したゾーホー・ジャパンの社長から「よくできた提案内容」としてインターン最終日に横浜の本社で全社員向けにも発表を行うことになったほか、「町の幹部職員の方にもこの内容を共有してもらいたい」との依頼がありました。

▼インターン生たちは以下の3点をテーマにして提案を作成しました。

- 地元の人々と自治体と企業の協力で川根本町における過疎課題を解決すること
- 地域への関心を子どもにも与えるコミュニティを築くこと
- 経済的に自立できるコミュニティを築くこと

※左のページに提案内容を抜粋してまとめましたので、ご覧ください。



●静岡大学から今回のインターンに参加した大学生たち

Abhishek 出身：インド 専攻：工学部
 Dheeraj Negi 出身：インド 専攻：情報学科
 Do Hoang Hiep 出身：ベトナム 専攻：情報学科
 丸山健斗 出身：徳島県 専攻：工学部